

- 調査の概要と資料の特性について -

文化女大 ○三吉満智子 甲南女大 木岡悦子 静岡大 大村知子

東海学園女短大 辻 啓子 相模女大 永井房子 椋山女学園大 中保淑子

京都女大 福井弥生 大妻女大人間生科研 布施谷節子

目的 1989年の成人衣料調査を踏まえて、乳幼児衣料に特異な表示に関する問題や着衣の実態を明らかにする目的で一連の調査・研究を行った。

方法 本研究では質問紙法による調査と、衣料の試買、着用テストを行った。質問紙法は1990年11月～12月を調査期間とし、0～24ヵ月児の保護者を回答者として、留置法または面接法により、被服構成学部会員によって実施した。調査地域は34都道府県である。調査内容は①サイズ・品質表示に関する14項目、②当日の着衣に関する実態調査35項目、③サイズ適合に関する問題点、処置等について25項目、④フェイスシート21項目である。また試買・着用テストは1991年10月、数社の既製服上・下衣のサイズ80、90について、表示と衣服寸法、身体への適合、適応、洗濯による収縮その他について検討した。

結果 1)質問紙による調査者は222名、回答回収数は1049、その内有効回答は1014であった。対象児の男女はほぼ同数、月齢は0ヵ月が少ないものの、6ヵ月ごとに4区分したグループではほぼ均等であった。地域的なかたよりは、関東地区が約35%と最も多く、次いで関西、中部であり、他地域はやや少ない。2)家庭状況は、いわゆるサラリーマン家庭が80%を占めており、父親の年齢は30代が約70%、母親は20代、30代が45%、52%である。母親の就業率は約30%、昼間の主たる保育者では、母親が約70%となっている。世帯の年収平均は約600万円、祖父母同居世帯は約20%である。